

第2回森町総合計画審議会 次第

日時：令和8年2月5日(木) 15:30～

場所：森町町民生活センター2階 集会室

1 開 会

2 町長あいさつ

3 第10次森町総合計画策定について（諮問）

4 議事

（1）第9次森町総合計画評価結果及び各種調査結果等の報告について

（2）第10次森町総合計画基本構想（骨子案）及び第3期森町人口ビジョン案について

5 その他

（1）第3回森町総合計画審議会の開催について

日時：令和8年3月27日（金）15時00分～（予定）

会場：森町町民生活センター2階 集会室

6 閉 会

町民アンケート・中学生アンケート結果（概要版）

1. 調査概要

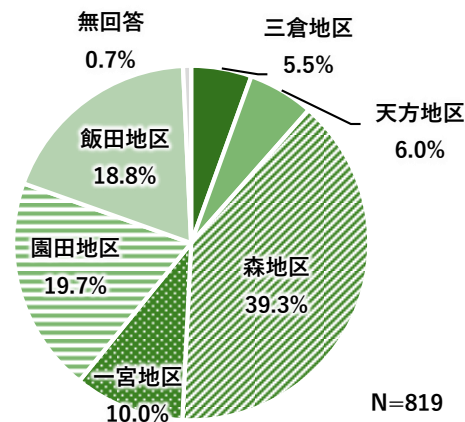
	町民アンケート	中学生アンケート
調査目的	第10次森町総合計画の策定にあたり、広く町民の意見を伺い、計画策定の検討の一助とする。	第10次森町総合計画の策定にあたり、町内の中学生の意見を伺い、計画策定の検討の一助とする。
調査対象	森町在住の15歳以上の町民を対象に2,000人を無作為抽出	森中学校、旭が丘中学校の1年生～3年生の全生徒407人（R7.5.1時点）
調査方法	郵送配布、郵送またはWEB回収	WEB回答
調査期間	令和7年8月26日～9月12日	令和7年7月2日～7月17日
回収状況	有効回収数819件 回収率41.0% うち郵送回収666件、WEB回収153件	有効回収数384件 有効回収率94.3%

2. 調査結果

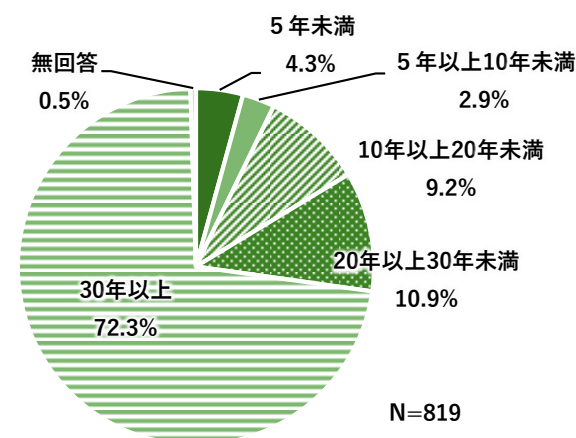
(1) 個人属性【町民・中学生】

・町民アンケート結果の8割以上が「20年以上森町に住み続けている」と回答。

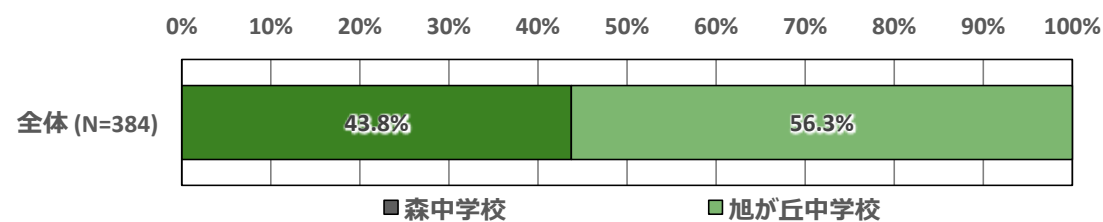
[居住地（町民）]



[居住年数（町民）]



[通っている中学校（中学生）]

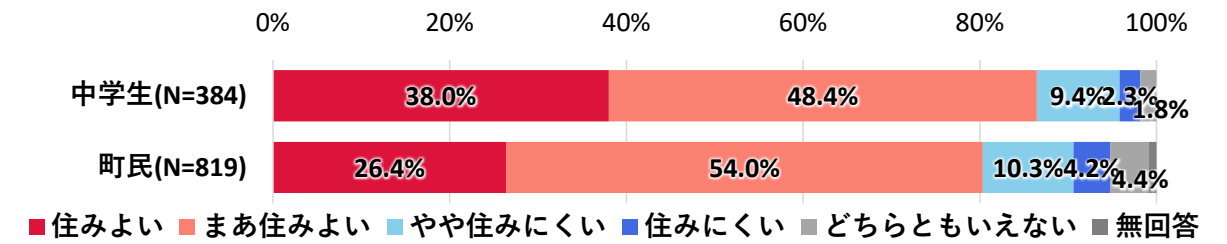


<調査結果の表記について>

町民：町民アンケート結果に基づく
年代別：町民アンケート結果を年代別に集計したもの
中学生：中学生アンケート結果に基づく

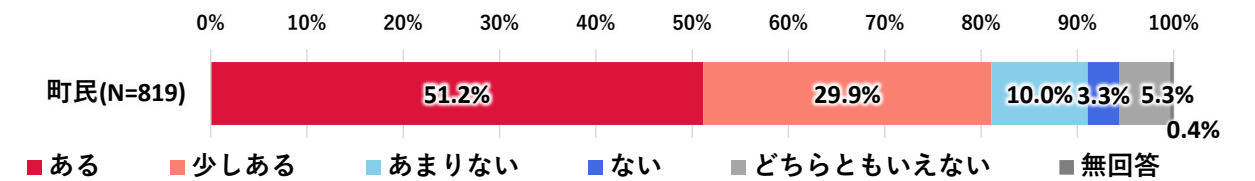
(2) 森町の住みよさ【町民・中学生】

・町民アンケート結果・中学生アンケート結果ともに8割以上が「住みよい（住みよい+まあ住みよい）」と回答。



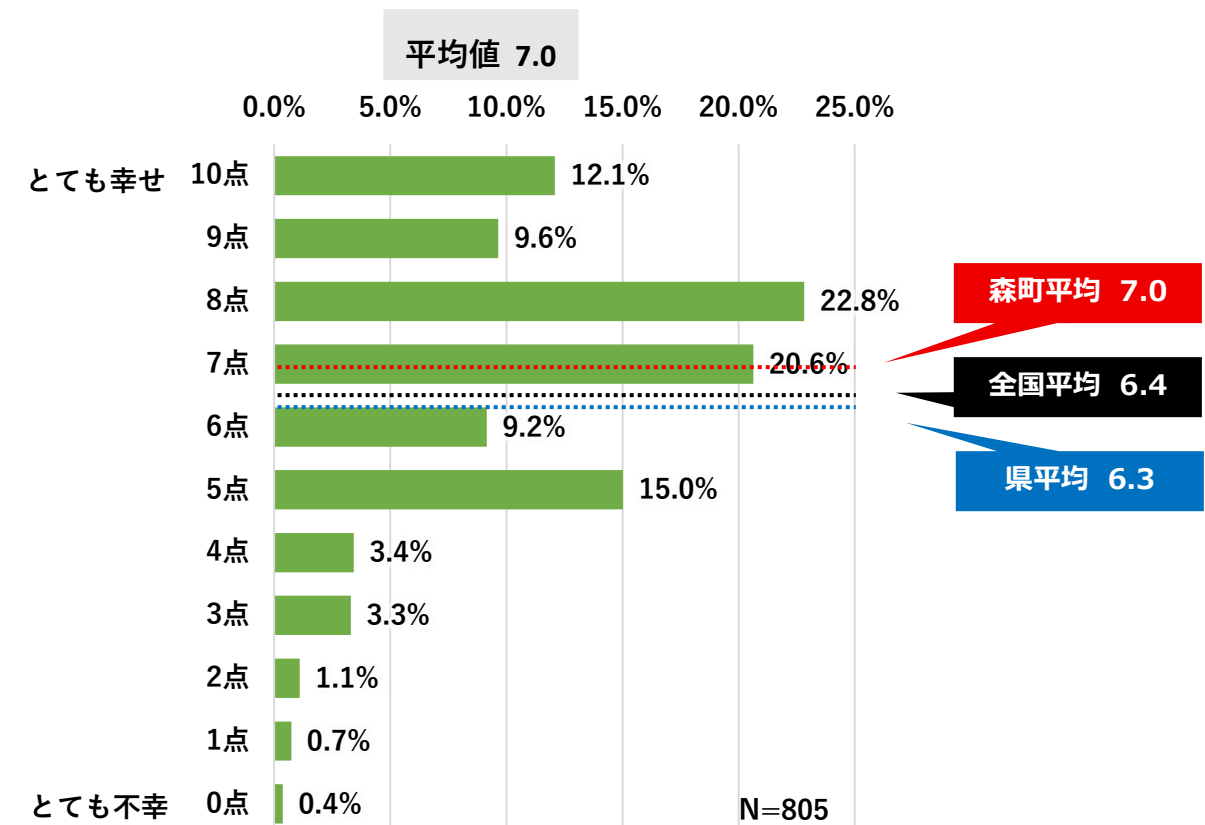
(3) まちへの愛着【町民】

・町民アンケート結果の約8割が森町に「愛着がある（ある+少しある）」と回答。



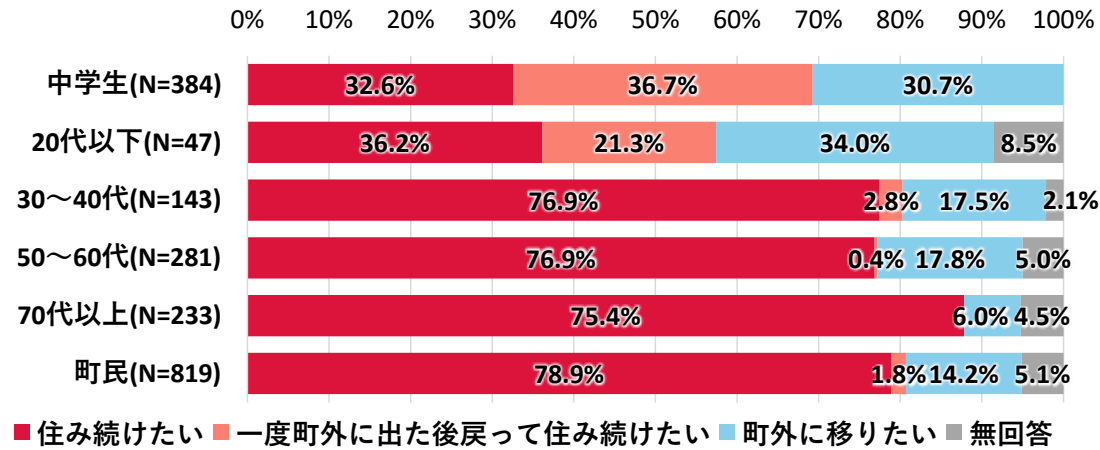
(4) 幸福度（現在のどの程度幸せか）【町民】

・町民アンケート結果の平均幸福度は7.0となっており、全国平均（6.4）や静岡県平均（6.3）よりも高い。



(5) 森町に住み続けたいかどうか【町民・中学生】

・町民アンケート結果の約8割、中学生の約7割が森町に「住み続けたい」と回答。
 ・中学生アンケート結果を含めた20代以下の約3割が「町外に移りたい」と回答。

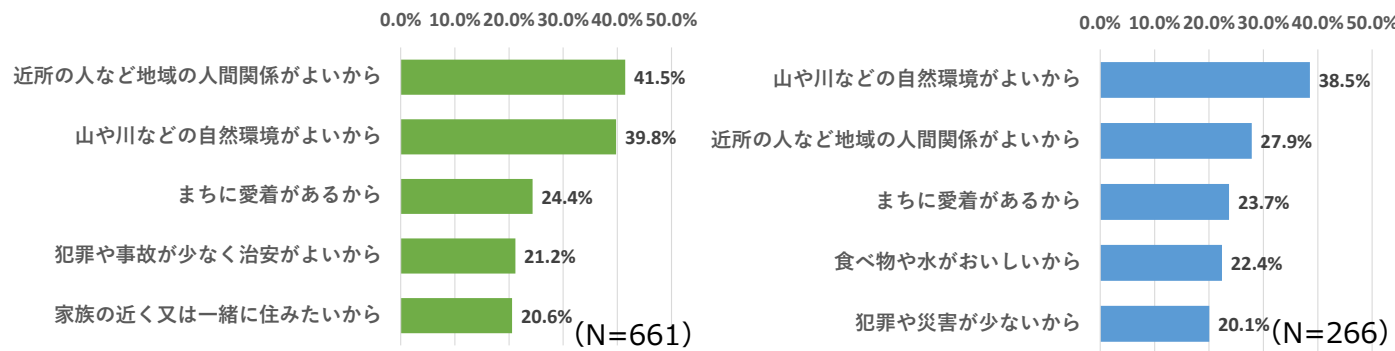


(6) 森町に住み続けたい理由

・町民アンケート結果、中学生アンケート結果ともに住み続けたい理由は「近所の人など地域の人間関係がよいから」や「山や川などの自然環境がよいから」の回答が多く、次いで「まちに愛着があるから」の回答が多い。

[町民 (上位5位まで)]

[中学生 (上位5位まで)]



順位	中学生 (N=266)	20代以下 (N=27)	30代～40代 (N=114)	50代～60代 (N=217)	70代以上 (N=303)
1	山や川などの自然環境がよいから 38.5%	まちに愛着があるから 44.4%	山や川などの自然環境がよいから 38.6%	近所の人など地域の人間関係がよいから 38.2%	近所の人など地域の人間関係がよいから 49.2%
2	近所の人など地域の人間関係がよいから 27.9%	山や川などの自然環境がよいから 40.7%	家族の近く又は一緒に住みたいから 36.8%	山や川などの自然環境がよいから 38.2%	山や川などの自然環境がよいから 41.3%
3	まちに愛着があるから 23.7%	家族の近く又は一緒に住みたいから 37.0%	近所の人など地域の人間関係がよいから 32.5%	犯罪や事故が少なく治安がよいから 25.3%	まちに愛着があるから 22.8%
4	食べ物や水がおいしいから 22.4%	食べ物や水がおいしいから 22.2%	まちに愛着があるから 23.7%	まちに愛着があるから 24.4%	犯罪や事故が少なく治安がよいから 21.1%
5	犯罪や災害が少ないから 20.1%	近所の人など地域の人間関係がよいから 18.5%	町内または近隣で働いているから 18.4%	家族の近く又は一緒に住みたいから 21.2%	災害の危険性が低いから 21.1%

(7) 町外に移りたい理由

町民 (N=661) ※上位5位まで

・中学生アンケート結果を含めた20代以下の町外に移りたい理由は「公共交通や買い物の利便性が低い」や「やりたい仕事がない・できない」が多い。

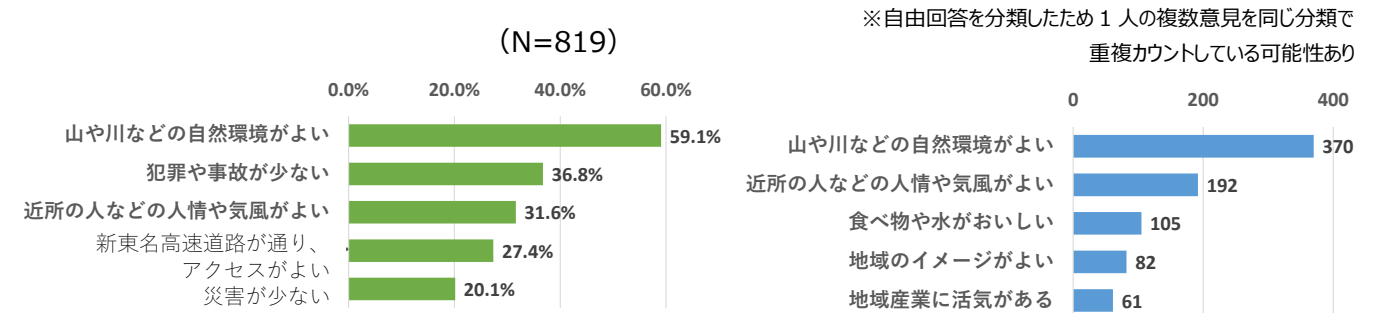
順位	中学生 (N=118)	20代以下 (N=16)	30代～40代 (N=25)	50代～60代 (N=50)	70代以上 (N=24)
1	買い物や飲食店が少ないから 22.7%	公共交通機関が充実していないから 50.0%	公共交通機関が充実していないから 44.0%	公共交通機関が充実していないから 46.0%	買い物など日常生活が不便だから 41.7%
2	将来やりたい仕事がないから 14.8%	買い物など日常生活が不便だから 50.0%	買い物など日常生活が不便だから 40.0%	買い物など日常生活が不便だから 44.0%	まちに活気や魅力がないから 41.7%
3	電車やバスでの移動が不便だから 13.5%	やりたい仕事がないから 50.0%	地域での人間関係がよいから 20.0%	医療施設・サービスが不足しているから 28.0%	公共交通機関が充実していないから 37.5%
4	遠くで進学や就職をして、そこで住み続けたいから 8.9%	町へのアクセスがよいから 25.0%	やりたい仕事がないから 20.0%	町へのアクセスがよいから 20.0%	町へのアクセスがよいから 29.2%
5	道路などの整備が遅れているから 4.2%	地域での人間関係がよいから 12.5%	子育て環境がよいから 16.0%	まちに活気や魅力がないから 18.0%	災害の危険性が高いから 20.8%

(8) 森町のよいところ

・森町のよいところは「山や川などの自然環境がよい」や「近所の人などの人情や気風がよい」が多い。
 ・町民アンケート結果では、森町のよいところは、自然環境に次いで「犯罪や事故が少ない」、「新東名高速道路が通り、アクセスがよい」等の回答が多い。
 ・中学生アンケート結果では、森町のよいところは、自然環境や近所の人々の人情・気風に次いで「食べ物や水がおいしい」の回答が多い。

[町民 (上位5位まで)]

[中学生 (上位5位まで)]

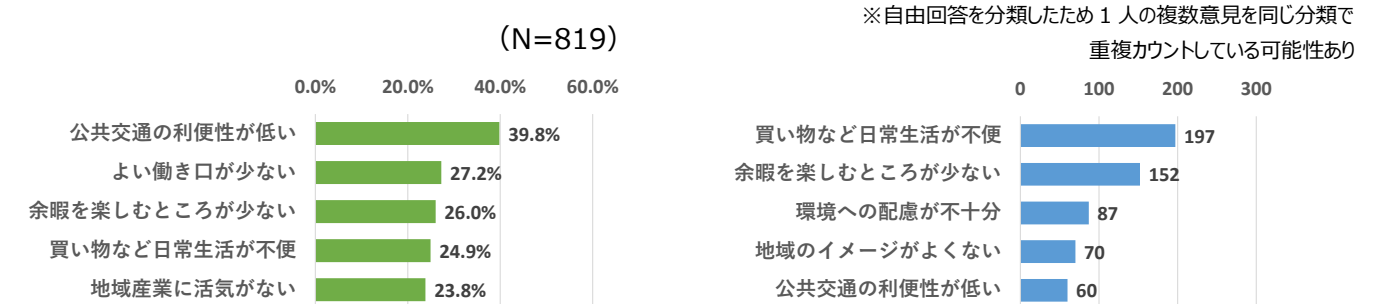


(9) 森町のよくないところ・課題

・町民アンケート結果では、森町の課題は「公共交通の利便性が低い」が最も多く約4割が回答しており、次いで「よい働き口がない」、「余暇を楽しむところが少ない」、「買い物など日常生活が不便」の順に回答が多い。
 ・中学生アンケート結果では、森町のよくないところは、「買い物など日常生活が不便」、「余暇を楽しむところが少ない」の順に回答が多い。

[町民 (上位5位まで)]

[中学生 (上位5位まで)]



(10) 森町のまちづくりに対する評価（町民アンケート結果）

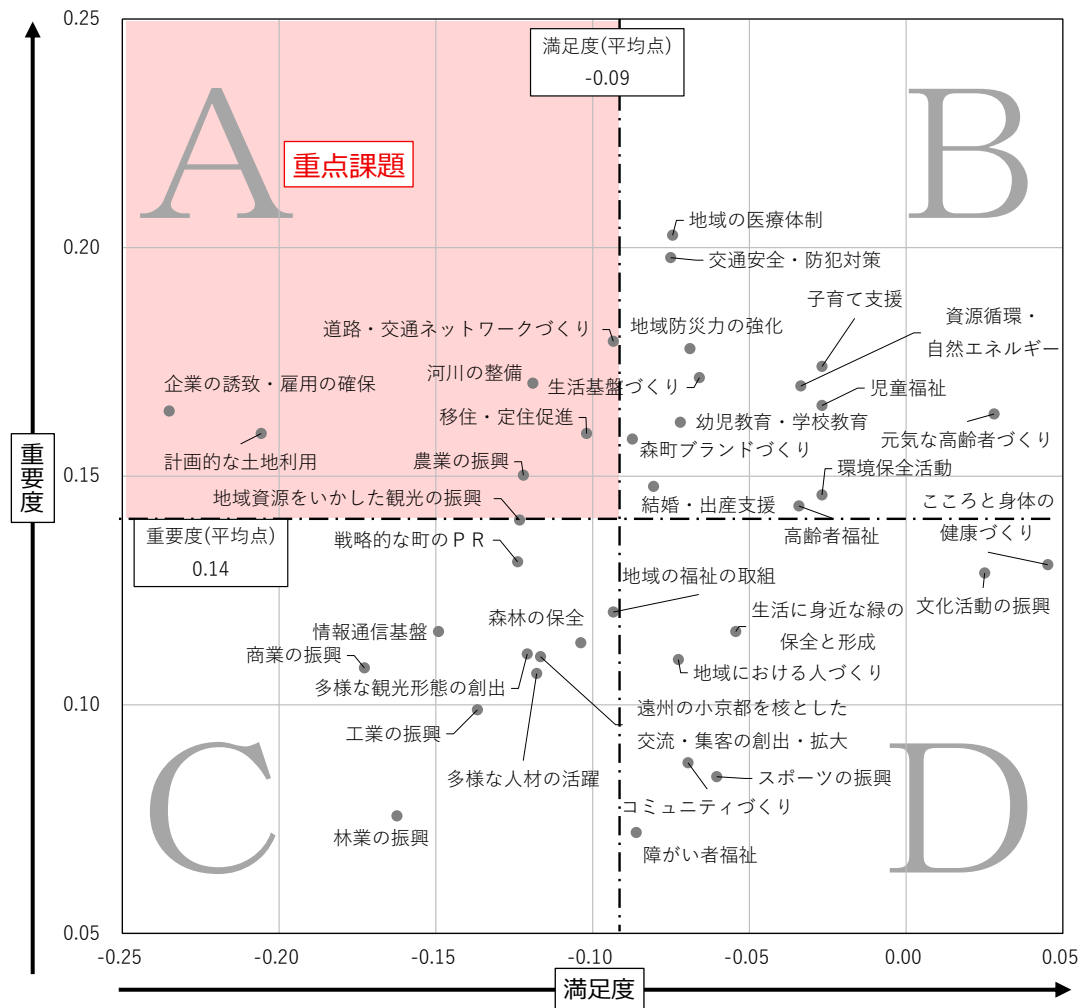
現行施策に対する、満足度・重要度についての評価結果を以下のように点数化し施策毎に平均点を算出しました。

現在の評価（満足度）	満足=+1.0	やや満足=+0.5	やや不満=-0.5	不満=-1.0	ふつう・無回答=0
今後への期待（重要度）	高い=+1.0	やや高い=+0.5	やや低い=-0.5	低い=-1.0	ふつう・無回答=0

表 満足度と重要度による取組評価の考え方

重要度	A 重点課題 満足度：平均点未満 重要度：平均点以上	重要性の認識は高いが、取組みに対する満足度は低く、他区分の取組に優先した重点的な対応が望まれます。	B 継続推進 満足度：平均点以上 重要度：平均点以上	重要性の認識も取組に対する満足度もともに高く、現在の水準を下げないように継続的な対応が望まれます。
	C 検討課題 満足度：平均点未満 重要度：平均点未満	重要性の認識が低く、取組に対する満足度も低く、必要性の検証や取組内容の見直しなどを検討し適切な対応が望まれます。	D 成果検証 満足度：平均点以上 重要度：平均点未満	重要性の認識は低いが、取組に対する満足度は高く、取組のあり方や必要性を検証し、適切な対応が望まれます。

満足度



(11) これからの森町がめざすべき姿

[町民アンケート意見]

①誰にとっても住みやすい、やさしいまち

- 住民一人ひとりを大切に、外から来る人にも温かいアットホームなまち
- 小さくても誇れる“ちょうどいい田舎”で、ずっと住み続けたい・帰って来たいと感じられるまち

②自然を守り活かすまち

- 山・川・森林・清流・星空など豊かな自然景観の保全・再生
- 自然体験・エコツーリズム・再生可能エネルギーなど、自然と共生したまち

③子育て世代、高齢者に手厚いまち

- 保育・教育・医療体制の充実、送迎・買い物等の移動支援
- 子どもから高齢者まで安心して暮らせる仕組み（世代間交流も含む）

④経済・産業・商業が元気なまち

⑤人口減少に対応したコンパクトシティ／持続可能なまち

⑥交流・観光・イベントで活気を生むまち

⑦安全・安心、健康なまち

⑧歴史・文化・伝統を大切にすまち

[中学生アンケート意見] 10年後の森町が「こんなまちになってほしいな」

①誰もが安心・安全で住みやすいまち

- 子どもから高齢者、障がいのある人や外国人まで暮らしやすい
- 犯罪や事故・災害が少なく、治安が良い／登下校や夜道も安心
- 公共施設・交通網が整い、快適に生活できる

②自然を守りながら暮らせるまち

- 森・川・田畑など豊かな自然環境を今のまま、あるいはもっと増やしたい
- ポイ捨てゼロ、環境保全を重視／自然と共存した都市機能
- 美味しい水・お茶・農産物など“自然の恵み”を大切にしたい

③お店や公共サービスが充実した“便利”なまち

- 商業施設や公共交通が増えて買い物等がしやすいまち
- 働く場所や産業も発展し、遠くまで行かなくても何でもそろふまち

④行事・イベント・伝統文化が盛んなまち

- 祭り・花火大会・森の祭りなど伝統行事を残し、さらに活性化
- 世代を超えて参加できる地域イベントやスポーツ大会を増やす
- 観光客にPRし、町外・県外から人が訪れる魅力をつくる

⑤活気と賑わいがあるまち

⑥人と人がやさしくつながるコミュニティ

⑦スポーツ・健康を推進するまち

⑧自慢・魅力を発信できるまち

3. 結果のとりまとめ

着色部：町民アンケートと中学生アンケートで共通する内容

町民アンケート	中学生アンケート								
<p>【居住年数】 ・8割以上が「20年以上」森町に住み続けている。</p> <p>【森町の住みよさ】 ・8割以上が「住みよい（住みよい+まあ住みよい）」と回答。</p> <p>【森町への愛着】 ・約8割以上が森町に「愛着がある（ある+少しある）」と回答。</p> <p>【町民の幸福度】 ・平均幸福度は7.0となっており、<u>全国平均（6.4）</u>や<u>静岡県平均（6.3）</u>よりも高い。</p> <p>【森町に住み続けたいか】 ・約8割が森町に「住み続けたい（住み続けたい+一度町外に出た後戻って住み続けたい）」と回答。</p> <p>【森町に住み続けたい理由】 ・住み続けたい理由は「<u>近所の人など地域の人間関係がよいから</u>」が最も回答が多く、次いで「<u>近所の人など地域の人間関係がよいから</u>」、「<u>まちに愛着があるから</u>」の回答が多い。</p> <p>【森町のよいところ】 ・森町のよいところは、「<u>山や川などの自然環境がよい</u>」に次いで「<u>犯罪や事故が少ない</u>」、「<u>近所の人などの人情や気風がよい</u>」、「<u>新東名高速道路が通り、アクセスがよい</u>」等の回答が多い。</p>	<p>【森町の住みよさ】 ・8割以上が「住みよい（住みよい+まあ住みよい）」と回答。</p> <p>【森町に住み続けたいか】 ・約7割が森町に「住み続けたい（住み続けたい+一度町外に出た後戻って住み続けたい）」と回答。</p> <p>【森町に住み続けたい理由】 ・住み続けたい理由は「<u>山や川などの自然環境がよいから</u>」が最も回答が多く、次いで「<u>近所の人など地域の人間関係がよいから</u>」、「<u>まちに愛着があるから</u>」の回答が多い。</p> <p>【森町のよいところ】 ・森町のよいところは、「<u>山や川などの自然環境がよい</u>」や「<u>近所の人などの人情や気風がよい</u>」の回答が多く、次いで「<u>食べ物や水がおいしい</u>」の回答が多い。</p>								
<p>【森町に住み続けたいか】 ・20代以下の約3割が「町外に移りたい」と回答。</p> <p>【町外に移りたい理由】 ・20代以下の町外に移りたい理由は「<u>公共交通や買い物の利便性が低い</u>」や「<u>やりたい仕事</u> <u>が森町にない・できない</u>」の回答が多い。</p> <p>【森町の課題】 ・森町の課題は「<u>公共交通の利便性が低い</u>」が最も多く約4割が回答しており、次いで「<u>よい働き口がない</u>」、「<u>余暇を楽しむところが少ない</u>」、「<u>買い物など日常生活が不便</u>」の順に回答が多い。</p> <p>【森町のまちづくりの評価（満足度低・重要度高）】</p> <table border="0"> <tr> <td>・企業の誘致・雇用の確保</td> <td>・河川の整備</td> </tr> <tr> <td>・計画的な土地利用</td> <td>・移住・定住促進</td> </tr> <tr> <td>・地域資源をいかした観光の振興</td> <td>・道路・交通ネットワークづくり</td> </tr> <tr> <td>・農業の振興</td> <td></td> </tr> </table>	・企業の誘致・雇用の確保	・河川の整備	・計画的な土地利用	・移住・定住促進	・地域資源をいかした観光の振興	・道路・交通ネットワークづくり	・農業の振興		<p>【森町に住み続けたいか】 ・約3割が「町外に移りたい」と回答。</p> <p>【町外に移りたい理由】 ・町外に移りたい理由は「<u>公共交通や買い物の利便性が低い</u>」や「<u>やりたい仕事</u> <u>が森町にない・できない</u>」の回答が多い。</p> <p>【森町のよくないところ】 ・森町のよくないところは、「<u>買い物など日常生活が不便</u>」、「<u>余暇を楽しむところが少ない</u>」の順に回答が多い。</p>
・企業の誘致・雇用の確保	・河川の整備								
・計画的な土地利用	・移住・定住促進								
・地域資源をいかした観光の振興	・道路・交通ネットワークづくり								
・農業の振興									
<p>【これからの森町がめざすまちの姿】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 誰にとっても住みやすい、やさしいまち ② 自然を守り活かすまち ③ 子育て世代、高齢者に手厚いまち ④ 経済・産業・商業が元気なまち ⑤ 人口減少に対応したコンパクトシティ／持続可能なまち ⑥ 交流・観光・イベントで活気を生むまち ⑦ 安全・安心、健康なまち ⑧ 歴史・文化・伝統を大切にするまち 	<p>【10年後森町がめざすまちの姿】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 誰もが安全・安心で住みやすいまち ② 自然を守りながら暮らせるまち ③ お店や公共サービスが充実した便利なまち ④ 行事・イベント・伝統文化が盛んなまち ⑤ 活気と賑わいがあるまち ⑥ 人と人がやさしくつながるコミュニティ ⑦ スポーツ・健康を推進するまち ⑧ 自慢・魅力を発信できるまち 								

**アンケート結果による
森町の強み**

町民アンケート結果では、8割以上がまちに愛着を持っている

- ・長年住み続けている人が多い
- ・町民の平均幸福度は、全国平均・県平均以上

中学生アンケート結果を含む7～8割が「住みよい」、「住み続けたい」と回答

- ・山や川などの豊かな自然環境
- ・地域の人間関係がよい
- ・犯罪や事故が少ない
- ・新東名高速道路が通り、広域アクセスがよい

**アンケート結果による
森町の課題**

中学生アンケート結果を含む20代以下の約3割が「町外に移りたい」と回答

- ・公共交通の利便性が低い
- ・買い物などの日常生活が不便
- ・やりたい仕事が森町にない・できない
- ・余暇を楽しむところが少ない

**アンケート結果による
10年後森町がめざすべきまちの姿**

- ・誰もが住みやすい、やさしいまち
- ・安全・安心で住みやすいまち
- ・自然を守り活かすまち
- ・子育て世代や高齢者に手厚いまち
- ・利便性が高く働きやすいまち
- ・伝統文化や地域交流を大切にするまち

ウェルビーイングアンケート結果 について

1. 調査概要について

○令和7年8月27日から12月5日に実施したWell-Beingアンケートでは、365件のWeb回答が得られました。

■調査概要

項目	内容
調査名称	森町地域幸福度（Well-Being）アンケート
調査期間	令和7年8月27日（水）～12月5日（金）
調査方法	Web調査
調査対象	町民一般
調査項目	(1) あなた自身のことについて (2) 地域における幸福度・生活満足度について (3) 森町の生活環境について (4) 地域の間関係について (5) 自分らしい生き方について ※デジタル庁の「地域幸福度（ウェルビーイング）指標アンケート」の調査項目に準ずる。
有効回収数	365件

1. 調査概要について

- デジタル庁の「地域幸福度（ウェルビーイング）指標」では、「生活環境」、「地域の人間関係」、「自分らしい生き方」の各項目を24の因子に細分化しています。
- アンケート調査項目は各因子と以下のとおりに対応しています。

■ 調査項目と24の因子

□ : 24の因子 (1) ~ (25) : 調査項目

生活環境（問9）

医療・福祉

- (1) 医療機関が充実している（利便性）
- (2) 介護・福祉施設のサービスが受けやすい

買物・飲食

- (3) 日常の買い物に全く不便がない（利便性）
- (4) 飲食を楽しめる場所が充実している

住宅環境

- (5) 自宅には、心地よい居場所がある
- (6) 【逆】自宅の近辺では、騒音に悩まされている
- (7) 適度な費用で住居を確保できる

移動・交通

- (8) 公共交通機関で好きな時に好きなところへ移動ができる

遊び・娯楽

- (9) 楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある

子育て

- (10) 子育て支援・補助が手厚い
- (11) 子どもたちがいきいきと暮らせる

初等・中等教育

- (12) 教育環境（小中高校）が整っている
- (13) 通学しやすい場所に学校がある

地域行政

- (14) 地域の行政は、地域のことを真剣に考えている
- (15) 公共施設は使い勝手良く便利である

デジタル生活

- (16) 行政サービスのデジタル化が進んでいる
- (17) 仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい

公共空間

- (18) 地域の雰囲気は、自分にとって心地よい
- (19) まちなか、公園、川沿い等で、心地よく歩ける場所がある

事故・犯罪

- (26) 防犯対策（交番・街灯・防犯カメラ・住民の見守り等）が整っており、治安がよい
- (27) 歩道や信号が整備されていて安心である

都市景観

- (20) 自慢できる都市景観がある

自然景観

- (21) 自慢できる自然景観がある

自然の恵み

- (22) 身近に自然を感じることができる
- (23) 暮らしている地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる

環境共生

- (24) リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである

自然災害

- (25) 暮らしている地域では、防災対策がしっかりしている。

地域の人間関係（問10）

地域とのつながり

- (1) 私は同じ町内に住む人々を信頼している
- (2) 地域活動（自治会・地域行事・防災活動等）への市民参加が盛んである
- (3) 困ったときに相談できる人が身近にいる
- (4) 町内の人が困っていたら手助けする
- (5) このまちに愛着を持っている

多様性と寛容性

- (6) 町内にはどんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある
- (7) 私は見知らぬ他者であっても信頼する
- (8) 私は、町内（集落）の人が自分をどう思っているかが気になる
- (9) 女性が活躍しやすい
- (10) 若者が活躍しやすい

自分らしい生き方（問11）

自己効力感

- (1) 自分のことを好ましく感じる

健康状態

- (2) 身体的に健康な状態である
- (3) 精神的に健康な状態である

文化・芸術

- (4) 文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい
- (5) 将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい

教育機会の豊かさ

- (6) 学びたいことを学べる機会がある

雇用・所得

- (7) やりたい仕事を見つけやすい
- (8) 適切な収入を得るための機会がある

事業創造

- (9) 新たなことに挑戦・成長するための機会がある

1. 調査概要について

- デジタル庁の「地域幸福度（ウェルビーイング）指標アンケート」は全国の自治体で取り入れられており、その結果がデジタル庁の運営するWEBサイト「地域幸福度（ウェルビーイング）指標 ダッシュボード」に公表されています。
- ダッシュボードでは、本アンケートの調査結果だけでなく、全国の自治体の調査結果を確認するとともに、アンケート結果による「主観データ」に加えて、統計データなどによる「客観データ」について、全国の自治体の平均と比較した偏差値が24の因子ごとに示されています。

■ 調査結果の公表

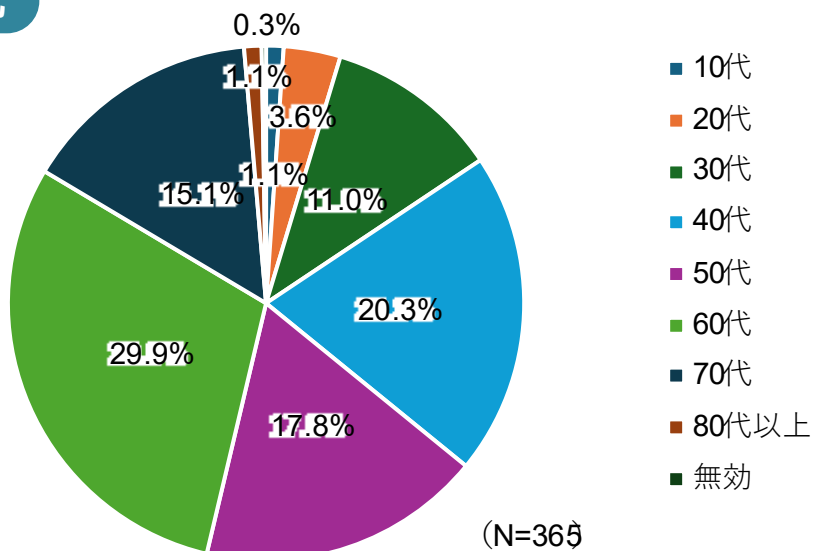


2. 調査結果概要について

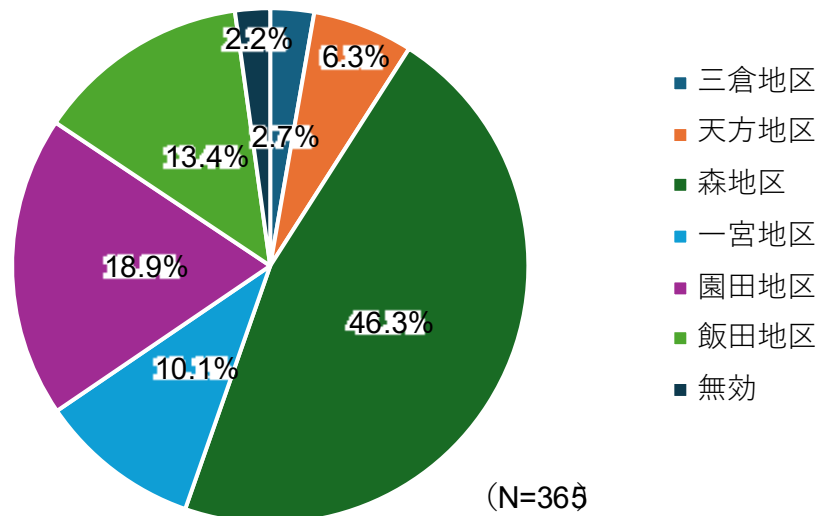
- 年代別に見ると、50代以上の人々が6割以上を占めており、60代が29.9%と最も多くなっています。
- 居住地別に見ると、森地区が46.3%と最も多く、次いで園田地区が18.9%となっています。

■ 回答者属性

年代



居住地

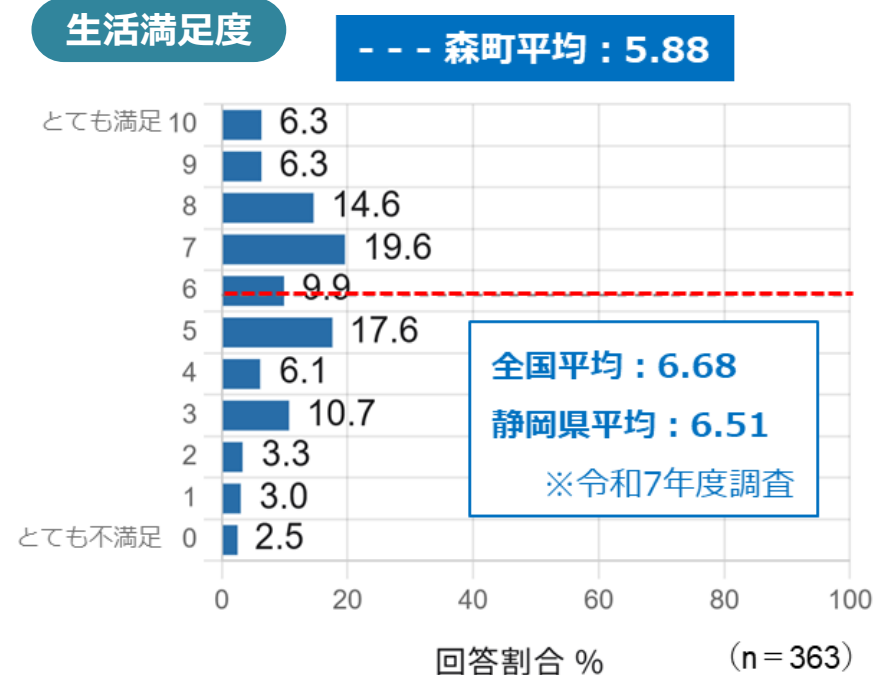


【出典】2025年度版(令和7年度版) Well-Being 個別調査

2. 調査結果概要について

- 幸福度について見ると、森町の幸福度平均は6.76と全国平均や静岡県平均よりも高くなっています。
- 生活満足度について見ると、森町の生活満足度は5.88と全国平均や静岡県平均よりも低くなっています。

■ 地域における幸福度・生活満足度について



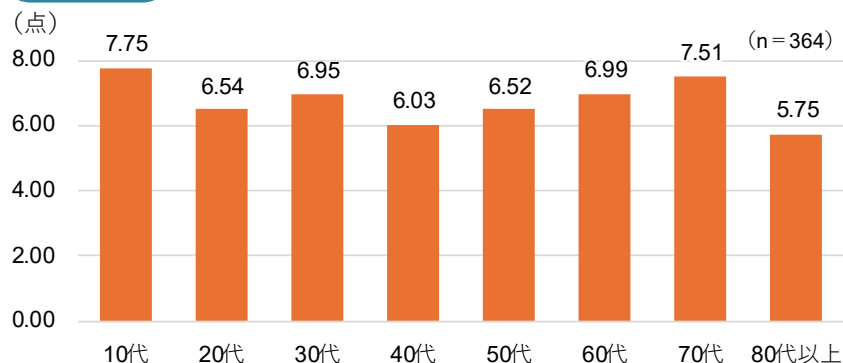
【出典】2025年度版(令和7年度版) Well-Being 個別調査

2. 調査結果概要について

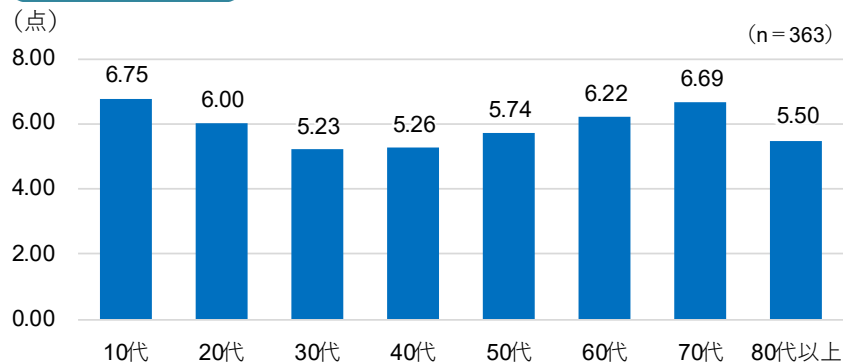
- 年代別幸福度・生活満足度について見ると、幸福度・生活満足度ともに10代が最も高く、次いで70代が高くなっています。
- 地域別幸福度・生活満足度について見ると、幸福度では三倉地区が最も高く、生活満足度ではその他に次いで天方地区が高くなっています。

■年代別幸福度・生活満足度について

幸福度

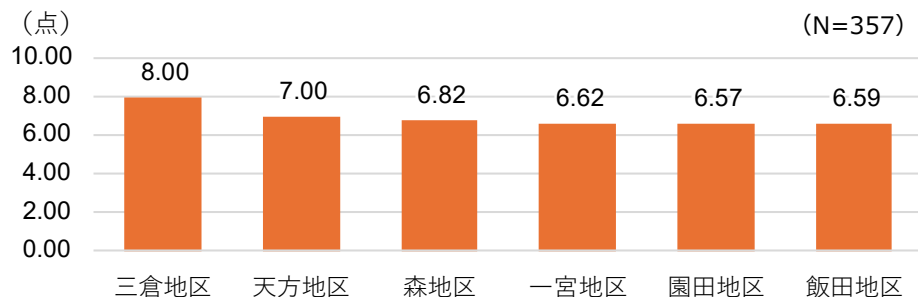


生活満足度

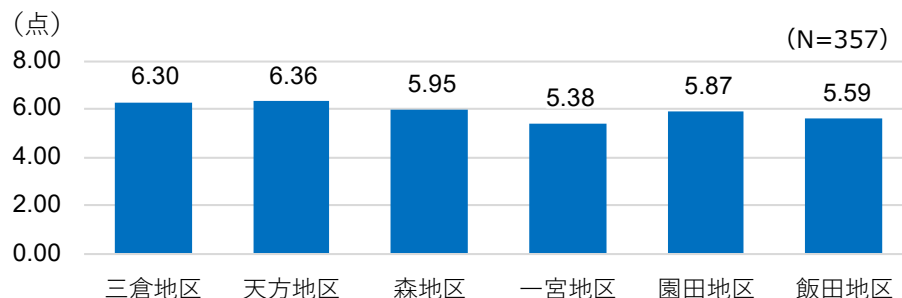


■地域別幸福度・生活満足度について

幸福度



生活満足度



2. 調査結果概要について

○生活環境について見ると、「暮らしている地域では、身近に自然を感じることができる」が最も評価が高く、次いで「自宅には、心地のいい居場所がある」が高くなっています。また、「私の暮らしている地域には、楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある」が最も評価が低く、次いで「私の暮らしている地域では、公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる」が低くなっています。

■森町の生活環境について

Q.あなたは、生活環境についてどのように感じていますか。

評価が高いベスト5	
1	暮らしている地域では、身近に自然を感じることができる
2	自宅には、心地のいい居場所がある
3	暮らしている地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる
4	自宅の近辺では、騒音に悩まされていない
5	私の暮らしている地域には、自慢できる自然景観がある

評価が低いワースト5	
1	私の暮らしている地域には、楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある
2	私の暮らしている地域では、公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる
3	私の暮らしている地域では、飲食を楽しめる場所が充実している
4	暮らしている地域の公共施設は使い勝手がよく便利である
5	私の暮らしている地域では、仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい

※「非常にあてはまる：5点」「ある程度あてはまる：4点」「どちらとも言えない：3点」「あまりあてはまらない：2点」「全くあてはまらない：1点」を評価点とし、回答者の評価点の平均値が高い項目順に掲載

※ただし、「自宅の近辺では騒音に悩まされている」のみ「非常にあてはまる：1点」～「全くあてはまらない：5点」として評価

【出典】2025年度版(令和7年度版) Well-Being 個別調査

2. 調査結果概要について

- 地域の人間関係について見ると、「私は、町内（集落）の人が困っていたら手助けをする」が最も評価が高く、「私の暮らしている地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある」が最も評価が低くなっています。
- 自分らしい生き方について見ると、「将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい」が最も評価が高く、「私の暮らしている地域では、やりたい仕事を見つけやすい」が最も評価が低くなっています。

■ 地域の人間関係について

Q.あなたは、地域の人間関係についてどのように感じていますか。

評価の高い順	
1	私は、町内（集落）の人が困っていたら手助けをする
2	私は、同じ町内（集落）に住む人たちを信頼している
3	私は、この町内（集落）に対して愛着を持っている
4	私の暮らしている地域では、地域活動（自治会・地域行事・防災活動等）への市民参加が盛んである
5	暮らしている地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる
6	私は、町内（集落）の人が自分をどう思っているかが気になる
7	この町内（集落）には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある
8	私の暮らしている地域には、女性が活躍しやすい雰囲気がある
9	私は、見知らぬ他者であっても信頼する
10	私の暮らしている地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある

■ 自分らしい生き方について

Q.あなたは、自分らしい生き方についてどのように感じていますか。

評価の高い順	
1	将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい
2	私は、精神的に健康な状態である
3	自分のことを好ましく感じる
4	私は、身体的に健康な状態である
5	暮らしている地域は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい
6	私の暮らしている地域では、学びたいことを学べる機会がある
7	暮らしている地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある
8	私の暮らしている地域では、適切な収入を得るための機会がある
9	私の暮らしている地域では、やりたい仕事を見つけやすい

※「非常にあてはまる：5点」「ある程度あてはまる：4点」「どちらとも言えない：3点」「あまりあてはまらない：2点」「全くあてはまらない：1点」を評価点とし、回答者の評価点の平均値が高い項目順に掲載

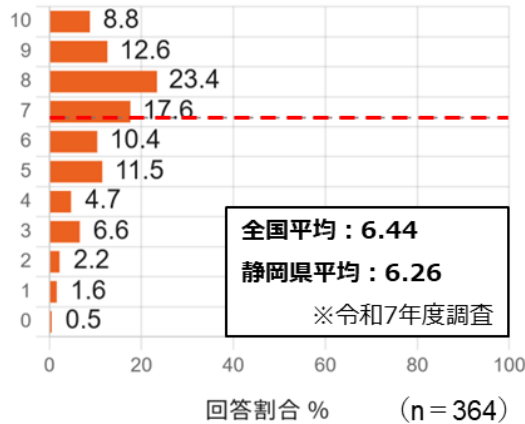
2. 調査結果概要について

○総合指標について見ると、幸福度・5年後の幸福度は全国平均や静岡県平均よりも高く、生活満足度・町内の幸福度・周りも楽しいは全国平均や静岡県平均よりも低くなっています。

■総合指標

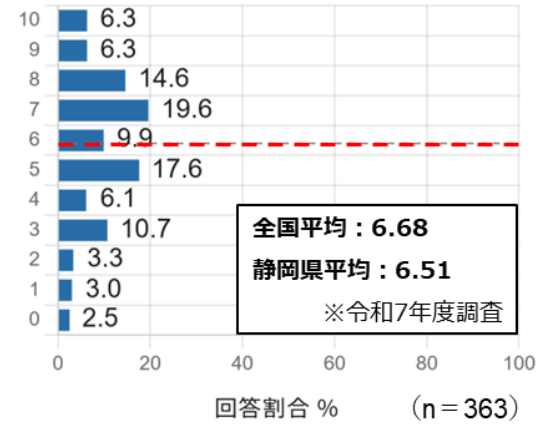
幸福度

--- 平均 : 6.76



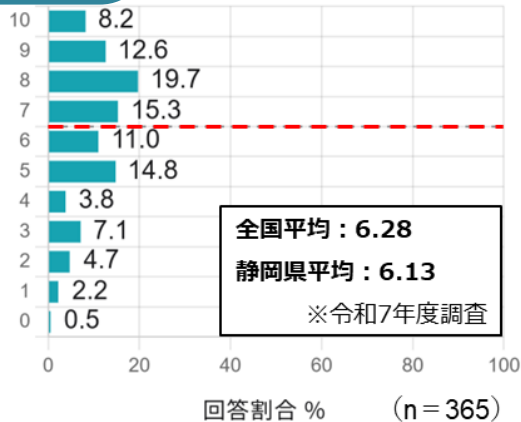
生活満足度

--- 平均 : 5.88



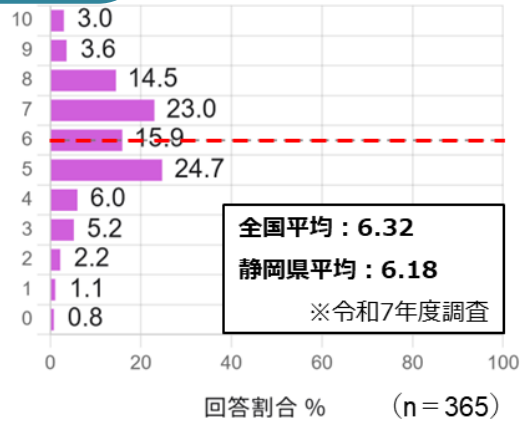
5年後の幸福度

--- 平均 : 6.49



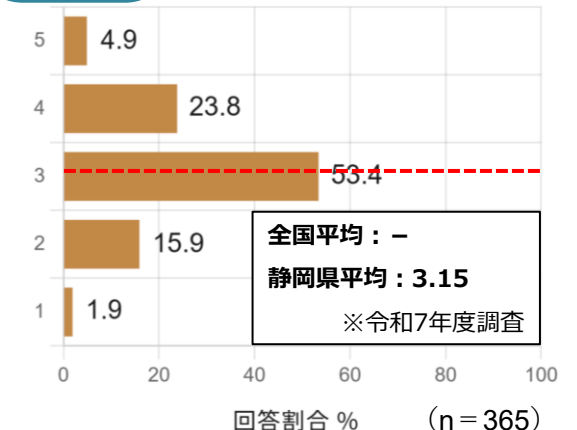
町内の幸福度

--- 平均 : 6.03



周りも楽しい

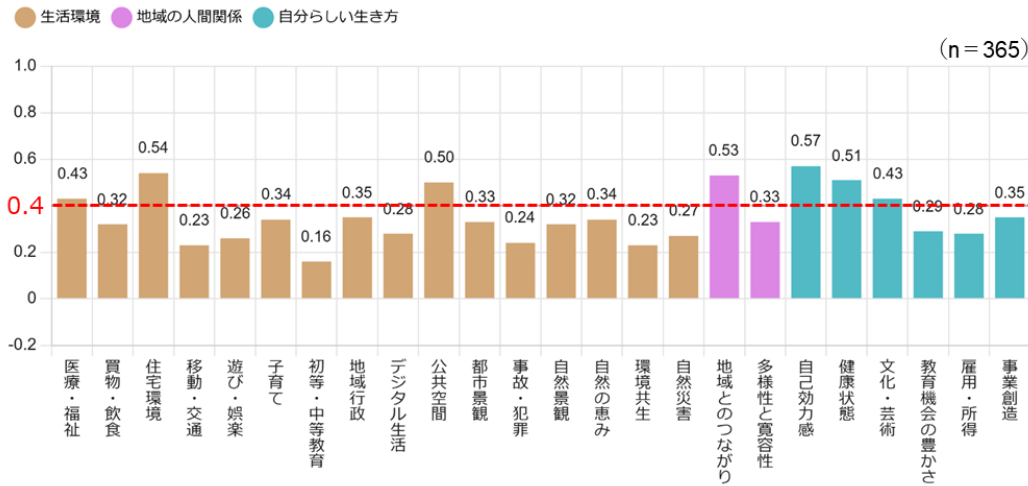
--- 平均 : 3.14



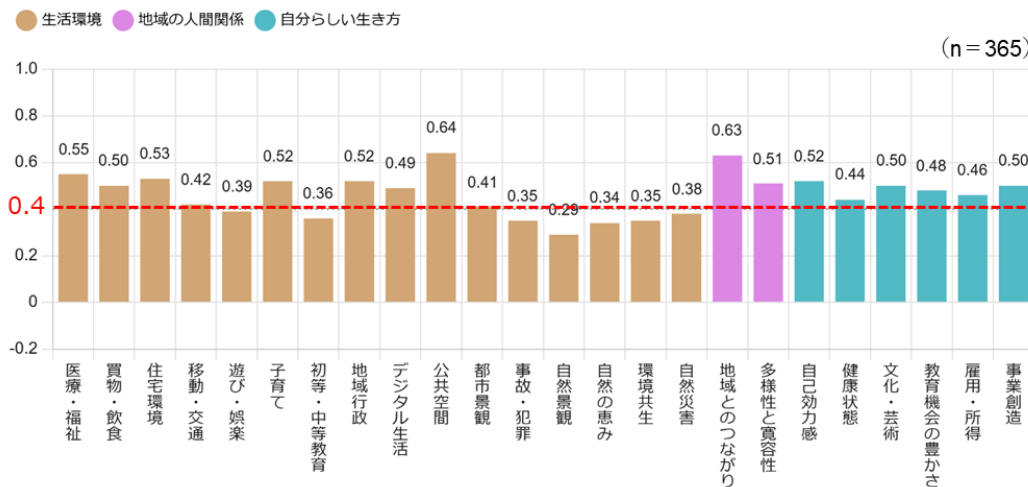
2. 調査結果概要について

- 各因子と幸福度の相関関係について見ると、自己効力感が0.57と最も高く、初等・中等教育が0.16と最も低くなっています。
- 各因子と生活満足度の相関関係について見ると、公共空間が0.64と最も高く、自然景観が0.29と最も低くなっています。

■各因子と幸福度の相関係数



■各因子と生活満足度の相関係数



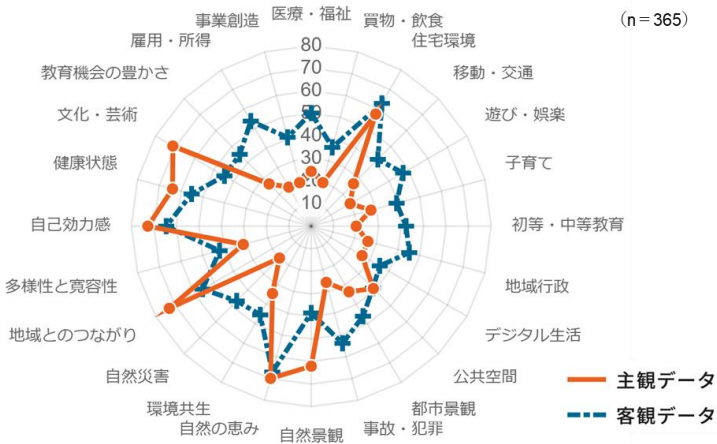
※相関係数は0.4以上が比較的強い相関があるとされています。

【出典】 2025年度版(令和7年度版)
Well-Being 個別調査

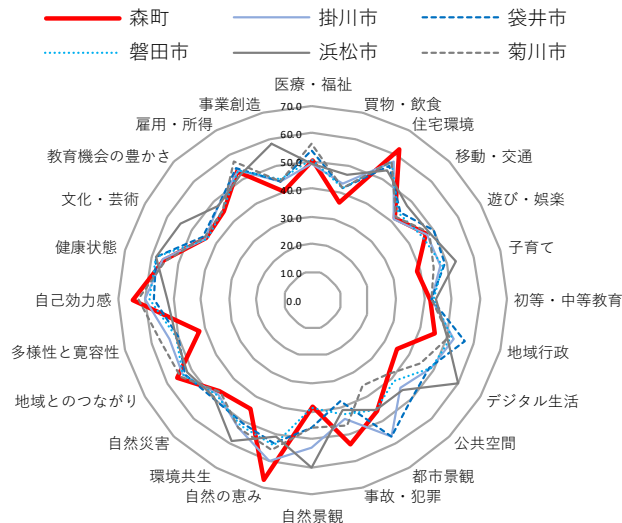
2. 調査結果概要について

- 全国の調査結果に基づく森町の偏差値では、雇用・所得が主観と客観データに最も差があり、公共空間が最も差が少なくなっています。
- 客観データの偏差値について近隣自治体と比較すると、森町では自然の恵み、自己効力感、住宅環境が近隣自治体と比較して特に高く、デジタル生活、多様性と寛容性、環境共生などで特に低くなっています。

■ 全国の調査結果に基づく森町の偏差値



■ 客観データを活用した近隣自治体間比較

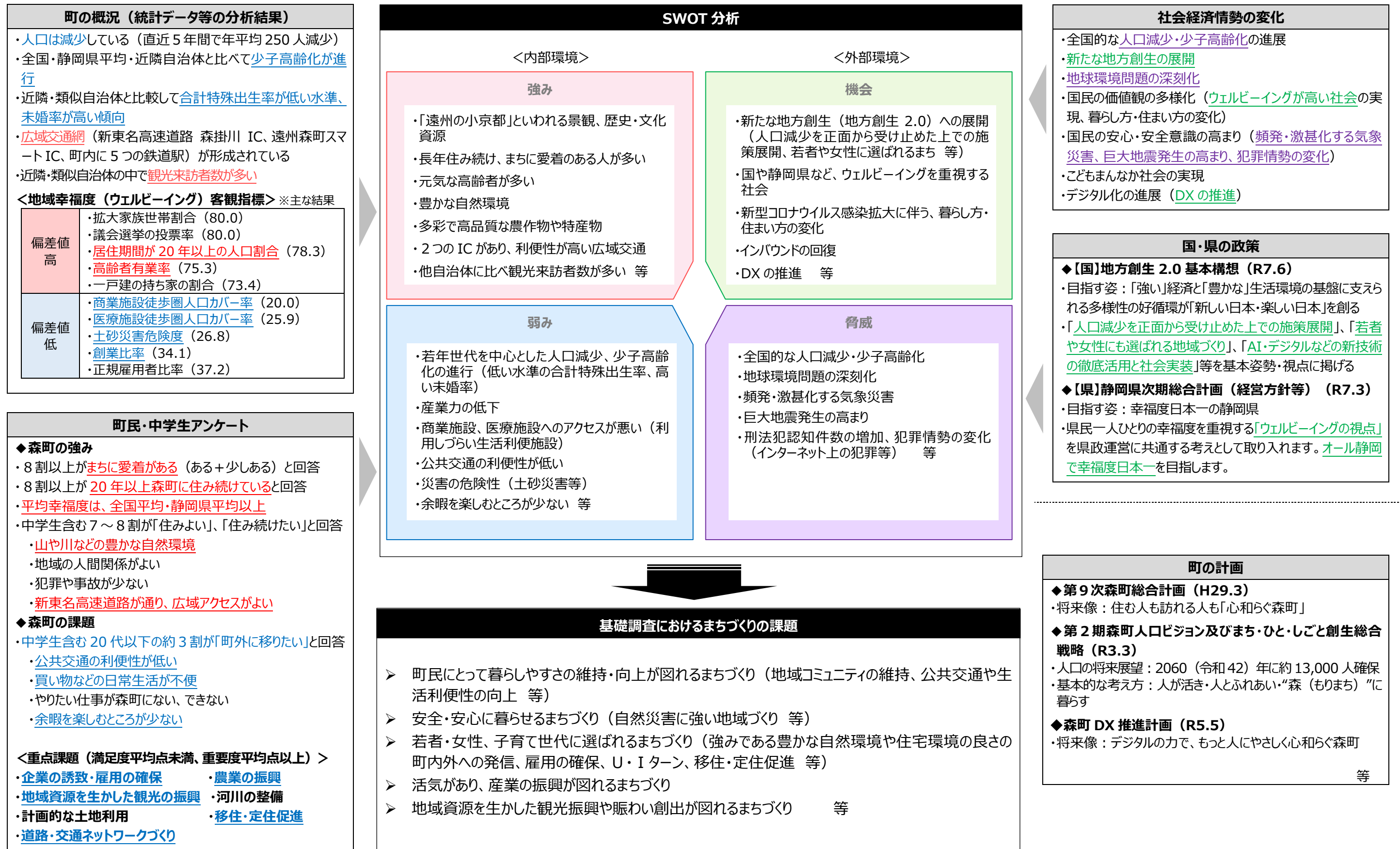


	主観	客観
医療・福祉	24.3	50.2
買物・飲食	20.0	36.2
住宅環境	57.4	62.9
移動・交通	26.6	41.9
遊び・娯楽	20.0	47.2
子育て	27.5	39.3
初等・中等教育	20.0	42.2
地域行政	26.1	45.2
デジタル生活	26.1	35.2
公共空間	39.1	38.8
都市景観	33.6	46.1
事故・犯罪	25.8	53.8
自然景観	62.1	38.5
自然の恵み	69.9	67
環境共生	34.5	45.4
自然災害	20.0	46.9
地域とのつながり	72.9	55.8
多様性と寛容性	31.3	42.2
自己効力感	72.7	64.5
健康状態	63.9	55.1
文化・芸術	71.1	44.6
教育機会の豊かさ	26.5	45
雇用・所得	20.0	53.8
事業創造	20.0	40.8

※「事故・犯罪」と「自然災害」は偏差値が高いほど対策がとれている（良い状態である）ことを意味します。

【出典】2025年度版
(令和7年度版)
Well-Being 個別調査

第 10 次森町総合計画策定に向けた基礎調査結果（概要版）



第9次森町総合計画進捗実績

資料 4 - 1

1. 総合計画

(1) 目標指標の進捗実績

[進捗率の評価基準]

S: 目標値比100%以上

A: 目標値比80%以上100%未満

B: 目標値比60%以上80%未満

C: 目標値比40%以上60%未満

D: 目標値比20%以上40%未満

E: 目標値比20%未満

基本の柱1 保健・医療・福祉 ～みんなで助け合う健やかなまち～

	目標指標	No.	H28策定時	R02実績値	R06実績値	R07目標値	進捗度
(1) いつまでも「いきいき」過ごせるまちをつくる	国民健康保険被保険者の特定健康診査受診率	1	42.4%	39.0%	43.4%	65.0%	B
	公立森町病院経常収支比率	2	94.70%	100.4%	96.4%	102.0%	A
(2) 「お達者」で暮らせるまちをつくる	お達者度	3	男18.33年 女21.88年	男:18.62年 女:21.34年	男:15.5年 女:20.7年	男20.40年 女22.47年	男 B 女 A
	障がい児発達支援体制の構築(支援センターの整備)	4	0箇所	1箇所	1箇所	1箇所	S
(3) 子育て・育ちやすいまちをつくる	児童館の利用者数	5	27,618人	9,927人	19,834人	28,500人	B
	ファミリーサポートセンター登録者数	6	依頼会員32人 協力会員31人 両方会員14人	依頼会員44人 協力会員40人 両方会員16人	依頼会員40人 協力会員35人 両方会員18人	依頼会員64人 協力会員64人 両方会員32人	依頼会員 B 協力会員 C 両方会員 C

基本の柱2 教育・文化 ～先人に学びみんなで育むまち～

	目標指標	No.	H28策定時	R02実績値	R06実績値	R07目標値	進捗度
(1) 「ひと」と「ひと」が育みあうまちをつくる	学校が楽しいと答える小学生	7	84.9%	89.7%	85.4%	95.0%	A
	授業が分かると答える中学生	8	72.7%	82.0%	86.0%	90.0%	A
	図書館年間来館者数	9	41,000人	26,504人	29,637人	41,800人	B
	子供一人当たり年間貸出冊数	10	25冊	35冊	19冊	31冊	B
	家庭教育支援員の人数	11	5人	8人	7人	11人	B
	森の夢づくり大学受講者数	12	570人	243人	380人	600人	B
(2) 歴史に学び多様な文化を継ぐまちをつくる	指定文化財件数	13	105件	113件	114件	130件	A
	森町文化会館の利用者数	14	76,500人	24,681人	73,235人	88,500人	A
	森町総合体育館利用者数	15	45,400人	33,957人	56,707人	70,000人	A
	各種スポーツ大会、スポーツ教室等への参加人数	16	3,560人	0人	2,683人	3,720人	B

基本の柱3 活力・情報発信 ～交流が盛んでにぎわうまち～

	目標指標	No.	H28策定時	R02実績値	R06実績値	R07目標値	進捗度
(1)調和のとれた居心地のよいまちをつくる	新東名インターチェンジ通行量(森掛川IC、遠州森町スマートIC)	17	3,845台/日	4,016台/日	4,807台/日	5,000台/日	A
(2)町の魅力や情報を広く効果的に発信するまちをつくる	公共施設無線LAN(Wi-Fi)スポットの設置数	18	5箇所	19箇所	19箇所	20箇所	A
	遠州の小京都森町ファンクラブ会員数	19	85人	574人	854人	1,000人	A
(3)地域の宝・資源を最大限にいかしたまちをつくる	観光交流客数(年間観光入込客数)	20	1,123,000人	591,074人	992,914人	1,100,000人	A

基本の柱4 産業振興 ～活気あふれる産業のまち～

	目標指標	No.	H28策定時	R02実績値	R06実績値	R07目標値	進捗度
(1)活力が持続できるまちをつくる	認定農業者及び認定新規就農者数	21	67人	70人	68人	65人	S
	木材生産量	22	3,500m ³	5,000m ³	3,924m ³	9,000m ³	C
	町内事業所数	23	894事業所	833事業所	809事業所	900事業所	A
(2)新たな活力が生まれるまちをつくる	企業立地件数	24	3件	1件	0件	H28～R2 累計7件 R3～R7 年1件	D

基本の柱5 安心・安全 ～いつまでも暮らせるやすらぎのまち～

	目標指標	No.	H28策定時	R02実績値	R06実績値	R07目標値	進捗度
(1)安全・快適に暮らせるまちをつくる	住宅の耐震化率	25	74.7%	80.3%	80.3%	100.0%	A
	水道石綿管布設替率	26	80.0%	100.0%	100.0%	100.0%	S
	公共下水道接続率	27	56.0%	61.2%	59.8%	61.0%	A
(2)災害に強い、地域防災力の高いまちをつくる	地域防災訓練に参加した町民の割合	28	27.0%	0.9%	21.4%	35.0%	B
(3)コミュニティ豊かな地域活動が活発なまちをつくる	協働のまちづくり事業実施団体数	29	15団体	9団体	8団体	20団体	C

基本の柱6 自然環境 ～豊かな自然があふれるまち～

	目標指標	No.	H28策定時	R02実績値	R06実績値	R07目標値	進捗度
(1)緑豊かな自然あふれるまちをつくる	森林の間伐実施面積	30	127ha	191.1ha	145.7ha	200ha	B
(2)自然環境と共存するまちをつくる	1人当たりの家庭ごみ年間排出量	31	167kg	178kg	163kg	150kg	D

【全体】	S	3	8.8%
	A	14	41.2%
	B	11	32.4%
	C	4	11.8%
	D	2	5.9%
	E	0	0.0%
	指標数	34	100.0%

第9次森町総合計画 目標指標 進捗度及び評価結果

資料4-2

基本の柱	基本方向	目標指標	目標指標の進捗度(R06時点)	施策の方向	町民の評価(R7町民アンケート)		
					満足度 (平均点と比べて高・低)	重要度 (平均点と比べて高・低)	
1 保健・医療・福祉 ～みんなで助け合う健やかなまち～	(1)いつまでも「いきいき」過ごせるまちをつくる	国民健康保険被保険者の特定健康診査受	B	1)こころと身体の健康づくりの推進	高	低	
		公立森町病院経常収支比率	A	2)地域医療体制の充実	高	高	
		お達者度	男 B 女 A	1)地域福祉社会の形成 2)高齢者福祉の推進	低	低	
	(2)「お達者」で暮らせるまちをつくる	障がい児発達支援体制の構築(支援センターの整備)	S	3)障がい者福祉の推進	高	低	
		児童館の利用者数	B	1)子育て支援の充実	高	高	
		ファミリーサポートセンター登録者数	依頼会員 B 協力会員 C 両方会員 C	2)児童福祉の推進	高	高	
2 教育・文化 ～先人に学びみんなで育むまち～	(1)「ひと」と「ひと」が育みあうまちをつくる	学校が楽しいと答える小学生	A	1)幼児教育・学校教育の充実	高	高	
		授業が分かると答える中学生	A				
		図書館年間来館者数	B	2)地域における人づくりの推進	高	低	
		子供一人当たり年間貸出冊数	B				
		家庭教育支援員の人数	B				
		森の夢づくり大学受講者数	B				
	(2)歴史に学び多様な文化を継ぐまちをつくる	指定文化財件数	A	1)文化活動の振興	高	低	
		森町文化会館の利用者数	A				
		森町総合体育館利用者数	A	2)スポーツの振興	高	低	
		各種スポーツ大会、スポーツ教室等への参加人数	B				
3 活力・情報発信 ～交流が盛んでにぎわうまち～	(1)調和のとれた居心地のよいまちをつくる	新東名インターチェンジ通行量(森掛川IC、遠州森町スマートIC)	A	1)計画的な土地利用の推進	低	高	
		公共施設無線LAN(Wi-Fi)スポットの設置	A	1)情報通信基盤の整備	低	低	
	(2)町の魅力や情報を広く効果的に発信するまちをつくる	遠州の小京都森町ファンクラブ会員数	A	2)戦略的なPR実施	低	低	
		観光交流客数(年間観光入込客数)	A	1)森町ブランドの育成・発信 2)地域資源をいかした観光の振興 3)多様な観光形態の創出	高	高	
	4 産業振興 ～活気あふれる産業のまち～	(1)活力が持続できるまちをつくる	認定農業者及び認定新規就農者数	S	1)農業の振興	低	高
			木材生産量	C	2)林業の振興	低	低
町内事業所数			A	3)商業の振興	低	低	
				4)工業の振興	低	低	
(2)新たな活力が生まれるまちをつくる		企業立地件数	D	1)企業の誘致・雇用の確保	低	高	
5 安心・安全 ～いつまでも暮らせるやすらぎのまち～	(1)安全・快適に暮らせるまちをつくる	住宅の耐震化率	A	1)交通安全・防犯対策の充実	高	高	
		水道石綿管布設替率	S	2)道路・交通ネットワークの整備	低	高	
		公共下水道接続率	A	3)生活基盤の整備	高	高	
	(2)災害に強い、地域防災力の高いまちをつくる	地域防災訓練に参加した町民の割合	B	1)地域防災力の強化	高	高	

基本の柱	基本方向	目標指標	目標指標の進捗度(R06時点)	施策の方向	町民の評価(R7町民アンケート)	
					満足度 (平均点と比べて高・低)	重要度 (平均点と比べて高・低)
6 自然環境 ～豊かな自然があふれるまち～	(3)コミュニティ豊かな地域活動が活発なまち	協働のまちづくり事業実施団体数	C	1)コミュニティづくりの推進	高	低
	(1)緑豊かな自然あふれるまちをつくる			1)生活に身近な緑の保全と形成	高	低
		森林の間伐実施面積	B	2)森林の保全	低	低
				3)河川の整備	低	高
	(2)自然環境と共存するまちをつくる	1人当たりの家庭ごみ年間排出量	D	1)資源循環と自然エネルギーの活用	高	高
				2)環境保全活動の推進	高	高

第 10 次森町総合計画基本構想（骨子案）

1. 計画の目次構成（案）

序論

第 1 章 計画策定にあたって

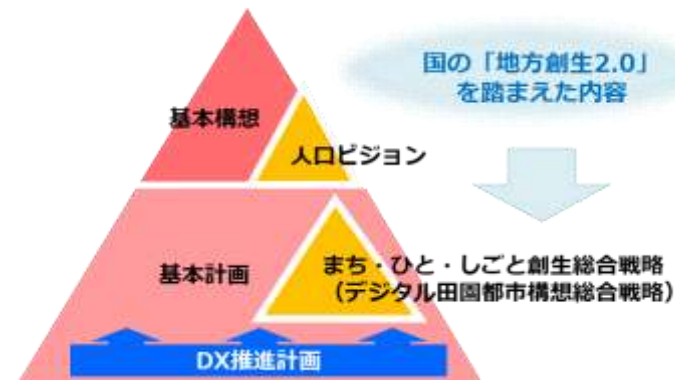
(1) 策定の目的

社会情勢の急速な変化に対応し、人々の幸福度（ウェルビーイング）の考え方を取り入れながら、当町が目指す姿と進むべき道筋を明らかにするための町政の中長期的な指針となる「第 10 次森町総合計画」を策定します。

(2) 計画の構成

本計画は、「基本構想」及び「基本計画」で構成します。なお、当町が推進するまちづくり全体の一体性と実効性を高めるため、地方創生を目的とした「人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略」とデジタルの力も用いて町の変革を進める「DX推進計画」を一体の計画として策定します。

「DX推進計画」は基本計画に組み込むことにより、デジタル技術が施策の推進を下支えする役割を持たせます。



(3) 計画期間

計画期間を令和 8 年度～17 年度までの 10 年間とします。

なお、基本計画については時代の潮流の変化に対応するため、計画期間を 5 年間とし、中間年で見直しを行います（前期基本計画 5 年、後期基本計画 5 年）。

第 2 章 計画策定の背景

(1) 社会状況

- 人口減少・少子高齢化 ●物価高騰 ●価値観等の多様化 ●デジタル技術の進展
- 気象災害の激甚化・頻発化 等

(2) 森町の現状と課題

- 森町の強み（豊かな自然環境、貴重な歴史文化資源、住宅環境の良さ等）
- 森町の弱み（人口減少・少子高齢化、公共交通の利便性、災害の危険性等）

(3) 町民意向

- 住みやすさの評価、定住意向
- 森町のよいところ、よくないところ
- 森町の重点課題（満足度・重要度） 等

基本構想【目標年次：令和 17 年度】

第 1 章 計画において大切にすること

- (1) 総合計画における視点
- (2) 未来につなぐ d X

第 2 章 基本理念・将来像

- (1) 基本理念
- (2) 将来像

第 3 章 基本の柱

総合計画における視点

- ウェルビーイング（幸福度）の考えを取り入れたまちづくり
- 社会情勢の急速な変化に対応した持続可能なまちづくり
- 森町らしさを生かしたまちづくり

未来につなぐ d X

森町におけるデジタルトランスフォーメーションの捉え方、実現したいこととそのための行動指針について記載

基本理念・将来像

基本理念：次期総合計画が目指すまちづくりの基本理念を設定
将来像：10 年後のまちの目指す姿を設定

基本の柱

基本の柱：分野ごとのまちづくりの方向性を示すもの

人口ビジョン【対象期間：令和 42 年度】

第 1 章 人口ビジョン

人口ビジョン

目指すべき将来の方向性を示し、自然増減や社会増減に関する見通しを立て、町の将来の人口を展望

基本計画（前期基本計画）【目標年次：令和 12 年度】

第 1 章 基本の柱ごとの取組（基本方向・施策の方向）

第 2 章 計画推進のために



2. 基本構想（骨子案）

基本理念・将来像、基本の柱について

基礎調査における森町の特徴と現状

<強み>

- ・「遠州の小京都」といわれる景観、歴史・文化資源
- ・長年住み続け、町に愛着のある人が多い
- ・元気な高齢者が多い
- ・豊かな自然環境
- ・多彩で高品質な農作物や特産物
- ・2つのICがあり、利便性が高い広域交通
- ・他自治体に比べ観光来訪者数が多い 等

<弱み>

- ・若い世代を中心とした人口減少、少子高齢化の進行（低い水準の合計特殊出生率、高い未婚率）
- ・産業力の低下
- ・商業施設、医療施設へのアクセスが悪い（利用しづらい生活利便施設）
- ・公共交通の利便性が低い
- ・災害の危険性（土砂災害等） 等

基礎調査におけるまちづくりの課題

- 町民にとって暮らしやすさの維持・向上が図れるまちづくり（地域コミュニティの維持、公共交通や生活利便性の向上 等）
- 安全・安心に暮らせるまちづくり（自然災害に強い地域づくり 等）
- 若者・女性、子育て世代に選ばれるまちづくり（強みである豊かな自然環境や住宅環境の良さを町内外への発信、雇用の確保、U・Iターンや移住・定住促進 等）
- 活気があり、産業の振興が図れるまちづくり
- 地域資源を生かした観光振興や賑わい創出が図れるまちづくり 等

森町まちづくり検討会（第1回・第2回）

◆町民にとって幸せな暮らしとは？（世代別）

- 【子ども】学校が楽しい、祭りが楽しい、家族の笑顔、遊び場が充実、地域とのつながりがある 等
- 【若者】就職先がある、治安が良く安心 等
- 【子育て・働き盛り世代】自由に働ける（子育て支援の充実）、買い物しやすい、森町病院が近い 等
- 【高齢者】コミュニティ（人とのつながり）、森町病院が近い 等

◆森町ならではの幸せな暮らしとは？

- 豊かな自然、景色、祭り、歴史文化
- 森町が好きという想い
- 森町病院が近くにあり健康に暮らせる
- つながりを感じられる、地域との交流がある
- ☆買い物、飲食、職、遊び場、バスが増える
- ☆自然災害に強い 等

○：森町にあるもので、今後もあり続けてほしいと思うこと
☆：今後こうなったらいいなと思うこと

町長インタビュー（R7.7.2）

- ・現行計画の将来像「住む人も訪れる人も『心とらぐ森町』は、これからも目指していくべきものという考えはある。
- ・歴史・伝統文化に裏付けられた遠州の小京都、あるいは自然景観こそが、他にはない森町らしさである。
- ・森町らしい、森町にしかないものを生かしていく、そういったまちづくりをすべきである。

町長マニフェスト

- 1 移住者、定住者に選ばれる「住みたいまち・住み続けたいまち」**
 - 移住定住を推進
 - 子育て、教育を充実
- 2 民間活力と連携した「活気あふれる産業と交流のまち」**
 - 産業を振興
 - 観光・交流を活性化
- 3 赤ちゃんから高齢者まで「だれにもやさしいまち」**
 - 安心・安全を確保
 - 自然環境を保護

第10次森町総合計画における視点

<新たな視点>

人々の幸福度（ウェルビーイング）の考えを取り入れたまちづくり

<核となる視点>

（1）社会情勢の急速な変化に対応した持続可能なまちづくり

- ・出生数の向上や社会移動を増やす等、人口減少対策への取り組み
- ・社会情勢の急速な変化に対応し、町民が心豊かに暮らせる持続可能なまちづくりへの取組

（2）森町らしさを生かしたまちづくり

- ・森町の特性や地域資源を生かし、まちの魅力をより一層高め、広げる取組
- ・町民や森町に関わる人が、まちに愛着や誇りを持てるまちづくりへの取組（シビックプライドの醸成）
- ・町民や民間事業者等と連携した、まちの活性化に向けた取組

※次ページへ続く

基本理念

I 「人とのつながり」

森町に住む人、訪れる人、事業者、行政など、森町に関わる多様な主体が、「人とのつながり」により、幸福度の高い持続可能なまちづくりを推進します。

II 「地域とのつながり」

地域の多彩な資源や個性を生かし、「地域とのつながり」を大切にします。まちの魅力をより一層高め、森町らしさを生かした持続可能なまちづくりを推進します。

III 「時とのつながり」

豊かな自然環境や景観、歴史・伝統文化など、これまで培ってきた「時とのつながり」を大切に、新たな価値を加えることにより、将来に向けて持続可能なまちづくりを推進します。

将来像

つながりと愛着を持ち 共に創る森町

この将来像に向かって、人口減少・少子高齢化社会の中においても、豊かな自然環境や歴史・伝統文化、多彩で高品質な特産品などの森町の良さを生かし、新たな価値を加えて、活気やにぎわいあふれる、幸福（しあわせ）を実感できる持続可能なまちづくりに取り組みます。

住む人や訪れる人、森町にゆかりのある人が、森町に愛着を持ち、「人・地域・時」のつながりの中で、共に知恵を出し合い、共に手を取り合い、共に新たな未来を創っていきます。

基本の柱

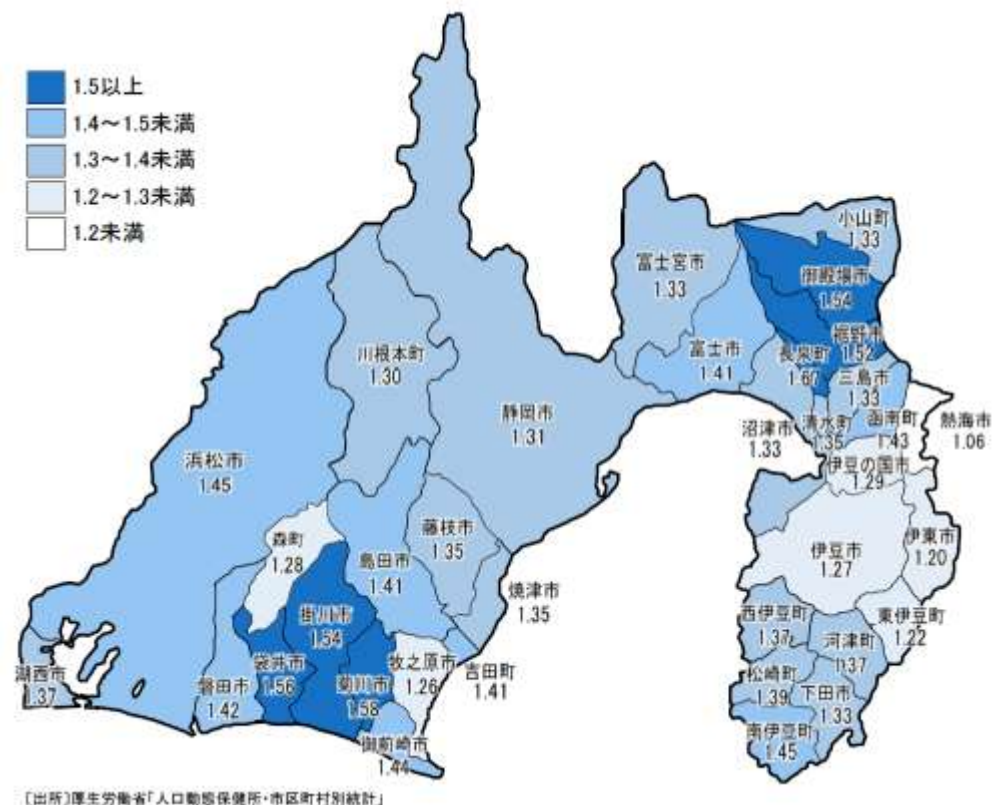
基本の柱 1	基本の柱 2	基本の柱 3	基本の柱 4	基本の柱 5	基本の柱 6
赤ちゃんから高齢者までだれにもやさしいまち	未来を担う人を育て、誇りが持てるまち	地域の宝を生かすまち	地域産業が元気なまち	安心して快適な暮らしができるまち	豊かな自然環境と共生するまち
(健康・福祉・医療)	(教育・文化)	(観光・交流・発信)	(産業振興)	(安心・安全)	(自然・環境)

第3期森町人口ビジョン（案）について

＜推計の基本的な考え方＞

- ・人口ビジョンの対象期間は、第2期森町人口ビジョンと同じ2060年までとする。
- ・合計特殊出生率は現状の合計特殊出生率（1.28）や近隣市町の状況を踏まえて、実現可能な高めの目標値として「1.50」を設定する。
- ・社会増減では近年、転入が転出を上回る年も見られることから、均衡または社会増（転入超過）を目標として設定する。
- ・令和7年国勢調査数値が総務省から公表後、令和7年国勢調査の数値に反映する（速報値公表：令和8年5月頃、確定値公表：令和8年9月頃）。

■近隣市町の合計特殊出生率（2018年～2022年）



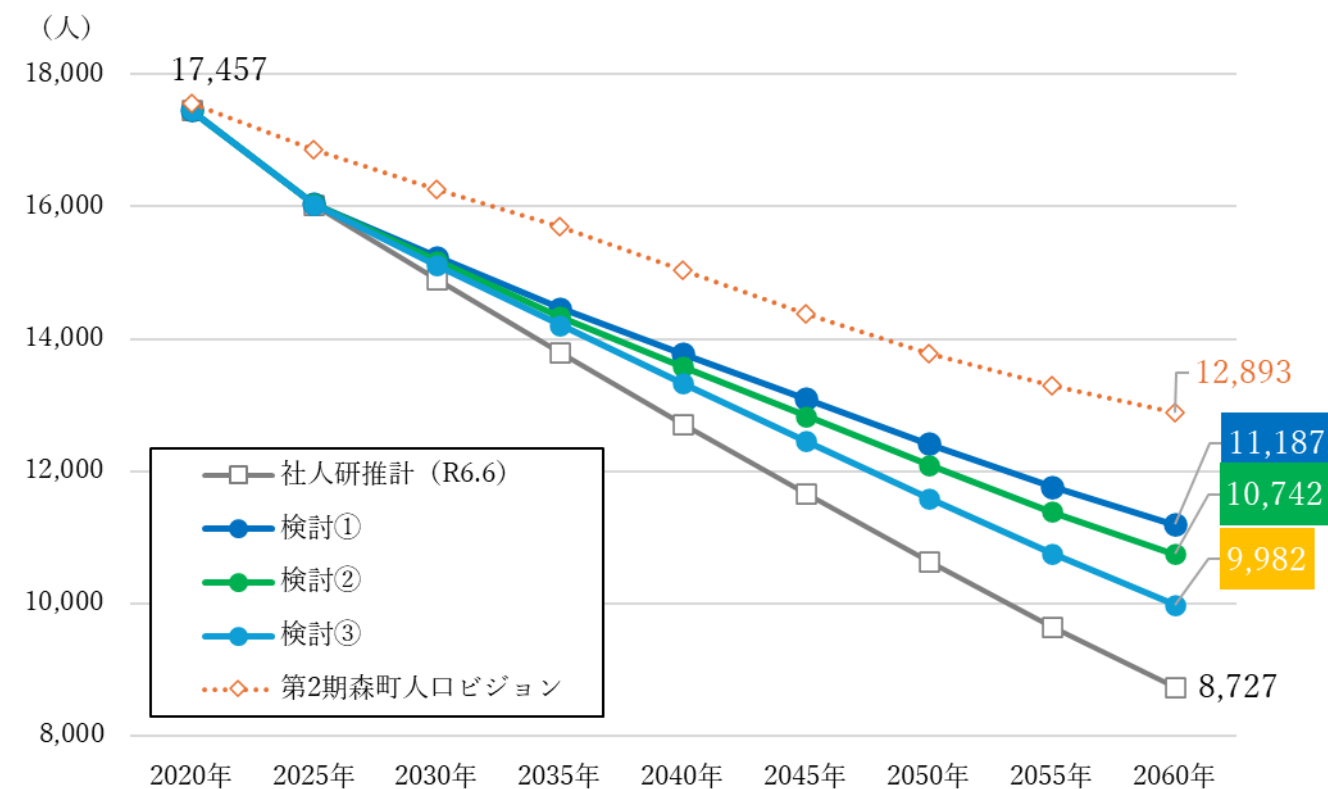
■森町における近年の転入・転出の状況

	(人)				
	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
転入	415	412	548	587	483
転出	516	526	581	568	562
増減	▲101	▲114	▲33	19	▲79

＜合計特殊出生率、5年間の純移動数の設定＞

	第2期森町人口ビジョン	第3期森町人口ビジョン推計パターン		
		検討①	検討②	検討③
合計特殊出生率	2035年に2.07	2040年に1.50	2045年に1.50	2055年に1.50
社会移動5年間の純移動数	2025年以降均衡	2026年以降+100人 2035年以降+150人	2026年以降+50人 2035年以降+100人	2026年以降 均衡

＜パターン別の推計結果＞



＜人口の将来展望（案）＞

